

## 忘れかけられている自然との共存から生まれた日本的時空感(工芸展等々より)

山と川に囲まれた土地→限られた空間→空間を大切に扱う。余白を重んじる考え方

### 合端の馴染み(作庭)

二つの石のお互いの置き合わせが馴染むように、それぞれの端の間合いをうまく取り、間の形を考える。

飛び石:景(美観)と渡(移動の機能性)とをバランスさせる思想, 渡六分に景四分、渡四分に景六分

日本:野石を置き、活かすことから生まれた感覚 vs 西洋 タイル(幾何、規格化)

人と人がうまくやっていくように、人とモノ、人と自然の間合いにもよりよい在り方があるという意識が向く。

使ううちに馴染む:独立して存在していたモノでも、月日がたつうちに意味が重ねられ深まる

### 自在

日本の襖、障子:取り外しが可能(隔てと開放の空間) vs 固定式の西洋建築

囲炉裏(生活の中心):①明かり ②暖房 ③防腐処理 /機能 + コトづくりの場

### 素地のままに

温暖な気候、柔らかく湿った空気、清らかな水の存在

不揃いな自然な反りをそのまま活かす:多様であることの豊かさと個々の在り方の控えめな主張

木目:風雪を耐えた四季の物語であり、変化に富んで美しいと感じる。「重ねる」を大切にする。

(素材のそのもののありようを、かたちの善し悪しとして評価する。)

花見:咲くと散るを両方観る。頃合いを見はからう。vs 中国 濃厚な牡丹の花を見る

「なる」:ありようを見抜いて生活の中に活かす